

新潟)捕虜収容所があった電化工場内に慰霊碑建立

上嶋紀雄 2014年9月6日 03時00分



慰霊碑の前に立つ元英国兵捕虜の娘、リンダ・ニコルズさん(右)と夫のケビンさん=糸魚川市青海、電気化学工業提供

第2次世界大戦時、捕虜収容所があった糸魚川市青海(旧青海町)の電気化学工業青海工場の敷地に、収容所で亡くなった英米兵60人の名前が刻まれた慰霊碑が建立された。5日、除幕式があり、元捕虜の遺族や英国大使らが出席した。

青海の捕虜収容所は、東京俘虜(ふりよ)収容所の分所として、1943年5月に同工場内の敷地に開設された。収容された約600人が過酷な環境の中、労働を強いられた。食料不足もあって、英国人58人、米国人2人が死亡。市民団体「POW(戦争捕虜)研究会」によると、終戦時には英国人432人、米国人109人、ニュージーランド人1人が収容されていた。

慰霊碑建立のきっかけを作ったのは、捕虜となった英国軍人の娘、リンダ・ニコルズさん(67)と夫のケビンさん(67)。父アーサー・ロバート・ジョーンズさんは42年2月にシンガポールで捕虜となり、翌年に収容所に送られた。

2008年に90歳で亡くなった父から収容所の話を知っていたというリンダさん。10年に「父がいたところを見たい」と夫とともに来日し、同工場を訪れた。その際、夫妻で当時の英国大使に慰霊碑建立の要望を伝えた。

その後、英国大使館が電気化学工業と交渉し、建立が実現。収容所跡地付近は工場になっているため、敷地内の別の場所に設置。費用は同社が負担した。

除幕式は非公開であり、英国、ニュージーランドなど海外から遺族や関係者約20人が参加した。式後、リンダさんは「多くの協力を得てこの日が来た。慰霊碑は平和と友情の象徴。慰霊碑ができたことで、今後、英国などからこの地を訪れる人がいるでしょう」と話し、平和交流が進むことを期待した。

ケビンさんも「慰霊碑が日本人にとって痛みになるのではなく、過去にどういうことがあったのか、捕虜のような出来事が二度とあってはならないことを考える機会になる」と語った。

電気化学工業によると、吉高紳介社長は式で、「不幸にも尊い命を落とされた方のご冥福をお祈りしたい。関係諸国と日本国の友関係の継続を願う」と話したという。(上嶋紀雄)

